

令和4年度 園自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年3月31日

学校法人 吉祥学園
認定こども園 水沢こども園

1. 本園の理念、教育・保育目標、教育・保育方針

○理念 たくさんの経験、活動を通し、他を思いやる気持ちを育て、又、ひとりひとりがより良く強く生きる力、意志を持つように育てる

○教育・保育目標 ・じょうぶな子・・・健康で明るく元気なたくましい子を育てます
・がんばる子・・・遊びに意欲をもって取り組み、試したり工夫したりしながら、最後までやり通す力を育てます
・やさしい子・・・友達との遊びの中で様々な体験をし、思いやりと豊かな感性を持つ子を育てます

○教育・保育方針

- 1 発達段階に応じた環境を整え、興味や関心を広げ、心情、意欲、態度等生きる力の根底となるものを育て、就学に接続し小1プロブレム等が生じないようにしていきます
- 2 家庭と連携し、保護者の家庭での養育力の向上を支援します
- 3 専門性を生かして、教育と保育の一体的なあり方を実現します
- 4 地域の人と共に子育て支援を実施します

2. 本年度の重点的な目標・計画

「保育の質を高める ～記録の工夫を通して～」

3歳以上児：幼児期に育みたい資質・能力について理解を深め、記録を通して質の高い保育のあり方を考える

3歳未満児：乳児保育における3つの視点について理解を深め、記録を通して質の高い保育のあり方を考える

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	「保育の質を高める ～記録の工夫を通して～」	A	乳幼児期の発達の側面を3つの視点（3歳未満児）と、幼児教育において育みたい資質・能力に関連させながら記録をとり、次の日の保育に活かしていくことを通して保育・教育の質の向上を図っていった。
2	3歳以上児 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に関わり、幼児期に育みたい資質・能力について理解を深めながら研修を重ねていく。 幼児をみとる視点を確かなものにし、記録を振り返ることで一人一人の成長を促し、生きる力の土台を育てていく。	A	3歳以上児 ・テーマについての共通理解・研究の進め方について検討（記録の取り方について検討し研究をすすめる） ・記録用紙の見直しと作成 ・作成した記録用紙を基に記録の取り方やクラスの様子について話し合いをする ・「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」について資料(実践例)をもとに話し合いをする ・資料をもとに話し合いをする（多面的に見取り、評価できるような記録の取り方について） ・5歳児の保育記録用紙を参考にし保育の振り返りを行う ・資料(実践例)をもとに幼児期の終わりまでに育って欲しい

	<p>3歳未満児</p> <p>安心・安全な環境の構成を大前提としながら、乳幼児保育の3つの視点について理解を深めていく</p>	A	<p>10の姿について話し合いをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト「幼児理解についての評価」を基に検討。感想意見を出し合う ・5歳児の保育記録を三つの柱の視点で話し合いをする ・研修の成果とまとめについて話し合う ・まとめ ・成果と今後の課題について <p>3歳未満児</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入園児・気になる子への共通理解 ・テキストを基に「乳児保育の三つの視点」について共通理解 ・子どもの理解を深め、保育者の援助や環境構成の在り方について考える（事例を出し合う） ・テキストを基に「危険予測のトレーニング」を行う ・テキストを基に「感染症対策」について話し合い ・新型コロナウイルス感染症への対応について ・雪遊びの際の安全対策について ・研修の成果と課題について話し合う ・まとめ ・成果と今後の課題について
--	--	---	--

評価（A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	<p><成果と課題></p> <p>○記録の取り方について検討し研修を行なったことで、10の姿に関連した視点で保育を振り返ることができ職員間での共通理解も図ることができた。また、日々の保育の振り返りとPDCAにより継続的な保育の質の改善につなげることができた。</p> <p>○「乳幼児保育の三つの視点」について共通理解をし、子どもの発達を捉え、どのような姿が育っているか確認することができた。また、保育者の援助の在り方や環境の構成について考え話し合いを行うことで質の高い保育へとつなげることができた。</p> <p>○2月のPTA総会で保護者に乳幼児期に育みたいことを、本園の保育と関連させながら伝えることができた。</p>

評価（A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった）

5. 今後取り組むべき課題

- 今年度は理解を深めながら、より専門的な視点で保育を構成していった。今後は更に乳幼児期の保育・教育を保護者や外部にも伝えていけることが必要である。
- 安心・安全な環境には常に配慮しているが、再確認のため物的環境においても人的環境においても、より細かなチェックを行なった。これは今後も継続しながら、より適切な環境で教育・保育を展開できるよう努めていきたい。

6. 学校関係者評価委員会の評価

- ① 園自己評価の結果の内容、それを踏まえた今後の改善方策、重点的に取り組むことが必要な目標や計画、評価項目等が適切であると評価します。
学校運営の改善に向けた取組も適切であると評価します。
- ② 適切に評価されています。
- ③ 確認しました。問題ありません。
- ④ 適切に評価されていると思います。
今後の運営等も適切に行われると思われまます。